

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475600688
法人名	株式会社 ダスキンゼロケア
事業所名	ゼロケア栗平センター
訪問調査日	平成 21 年 1 月 29 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 9 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1475600688
法人名	株式会社 ダスキンゼロケア
事業所名	ゼロケア栗平センター
所在地	神奈川県川崎市麻生区栗平1-2-13 (電話) 044-980-2056

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成20年12月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤 10 人, 非常勤 15 人, 常勤換算	19.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(330,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(平成20年12月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	3 名	要介護2	6 名			
要介護3	4 名	要介護4	5 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82 歳	最低	65 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あいクリニック、たま日吉台病院、ひまわり歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◆本人ができることを役割として受け持ってもらい、職員は「見守る介護」に取り組んでいる。
◆地域の方々に親しみを感じてもらえる事業所を目指して、外出時に地域の方々へ進んで挨拶を交わしたり、ボランティアを受け入れるなど、地域の方々との交流をはかっている。
◆家族会で地域とともに生きる意義について話し合い、利用者、家族と一緒に地域の催事への参加を計画したり、家族参加のバス旅行を実施するなど、家族との連携を大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題については、評価の意義の再認識をするとともに計画を立てて、全職員で改善に向けて取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者から職員に、自己評価や外部評価の実施は業務やサービスを見直すよい機会であることを説明し、両ユニットとも全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめて作成した。自己評価を通して、日常生活での観察に努め、利用者の思いに寄り添い、より安心と安らぎのある生活の実現に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は6ヶ月ごとに、利用者家族会の代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が出席して開催し、事業所から活動状況の報告、意見交換などを行っている。運営推進会議を通して、地域から災害時の協力を得られるように話し合いを行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口を重要事項説明書に記載し、意見を表明できることを入居時に説明している。家族の来訪時、家族会、運営推進会議等で、家族の意見等を聞くようにしている。寄せられた意見や苦情等は、センター長に報告し、調査、改善をしたうえで、利用者、家族に説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	外出時に、地域の方々へ進んで挨拶を交わしたり、編み物の好きな利用者から散歩時に知り合った近所の方へ手編みの帽子をプレゼントするなどして、地域の方々との交流をはかっている。家族会では、利用者、家族と一緒に地域の催事への参加を計画するなど、地域とともに生きる意義について話し合っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「その人がその人らしく、住み慣れた地域で生活できるよう、ご本人またそのご家族のサポートをします」を基に、「職員一丸で安全安心なホームを築く」「優しい笑顔で利用者の気持ちを大切にす」「地域社会に溶け込み楽しく生きがいのある生活を続けられるように支援する」と謳った事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関内と事務室に掲示して、職員が常に確認できるようにしている。また、日々のミーティングやカンファレンスを通して話し合い、意義や自らの役割の理解に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出時に、地域の方々へ進んで挨拶を交わしたり、編み物の好きな利用者から散歩時に知り合った近所の方へ手編みの帽子をプレゼントするなどして、地域の方々との交流をはかっている。家族会では、利用者、家族と一緒に地域の催事への参加を計画するなど、地域とともに生きる意義について話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から職員に、自己評価や外部評価の実施は業務やサービスを見直すよい機会であることを説明し、両ユニットとも全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめた。自己評価を通して、日常生活での観察に努め、利用者の思いに寄り添い、より安心と安らぎのある生活の実現に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6ヶ月ごとに、利用者家族会の代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員が出席して開催し、事業所から活動状況の報告、意見交換などを行っている。運営推進会議を通して、地域から災害時の協力を得られるように話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、利用者の状況や生活に関することや、生活保護を受給している人の入居などについて相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に日頃の様子を伝えている。全家族に「お便り」として、毎月初めに、請求書、預かり金の出納帳の写し、職員の異動の報告、日常のスナップ写真と併せて送付している。心身に変化が生じた時は、その都度電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を重要事項説明書に記載し、意見を表明できることを入居時に説明している。家族の来訪時、家族会、運営推進会議等で、家族の意見等を聞くようにしている。寄せられた意見や苦情等は、センター長に報告し、調査、改善をしたうえで、利用者、家族に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員との話し合いを心がけるとともに、余裕のある人員配置をし、職員間でもフォローしあい、職員の定着に努めている。異動や退職がある場合は、引き継ぎ期間を充分に取り、利用者への影響を最小限にするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規定に採用時研修と年2回以上の現任研修等を定めている。県、市、その他の研修等の情報を職員に回覧し、参加を促している。ホームヘルパー2級の取得研修には受講料の半額を補助している。研修後は報告書を作成し、朝礼等での報告や報告書の回覧を通して、全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所連絡協議会に参加するとともに、グループホーム以外の事業所とのネットワークに参加している。今後は、交流勉強会の機会を作り、他のグループホームの取り組みを学び、スキルアップをはかりたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や職員による事前の面談と、1週間から3週間の体験入居(ショートステイ)で、すでに入居している方々や職員を交えた食事やゲームに参加してもらい、環境や生活リズム、雰囲気馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみ、料理の下ごしらえなど、本人のできることを手伝ってもらったり、昔からの習慣などを教えてもらっている。職員は尊敬と感謝の念を持ち、利用者の思いに寄り添うよう心がけ、利用者喜びを感じてもらい、お互い様の気持ちで支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人、家族から思いや意向、生活上の希望を聞き、アセスメント表に記録し、全職員で共有している。入居後は、日々の会話や見守りの中から、体調や本人の意向を把握するよう努めている。意思表示の困難な利用者は、表情などの観察から本人の意向を把握するとともに、家族の意向もあわせて、カンファレンスにて全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に行ったアセスメントと、日常の生活から把握した本人の意向等のケース記録を基に、全職員がカンファレンスに参加して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、全職員参加のカンファレンスで話し合い、入居直後は3ヶ月後に、以降は6ヶ月ごとに行っている。定期的見直し以前に変化がある場合には、家族との相談をふまえて全職員で話し合い、随時、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人のデイサービスのリハビリ機材、絵合わせやクイズ等のアクティビティー材料を使用して、機能回復に取り組んでいる。また、デイサービスと共同で、フラダンスやカラオケなどのボランティアの発表会を行うなど、地域の方々と交流する機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を聞き、入居前からのかかりつけ医を希望する場合には、継続して受診してもらっている。受診結果を家族を通して把握しているが、必要に応じて、家族の了解を得て、かかりつけ医と事業所間で電話で情報交換も行っている。また、協力医療機関の月2回の往診があり、相談をしたり、緊急時には電話で対応してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、主治医の意見を参考にカンファレンスを行い、家族の意向を伺ったうえで、特別養護老人ホームや病院への入所・入院手続きなど、必要な援助をすることを規定に定め、職員間で共有している。本人、家族には入居時に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳やプライバシーを損ねないよう、ミーティングや会議などで周知徹底して、さりげなく人目に付かない言葉遣いや対応を日頃から心がけている。個人情報保護については採用時に守秘義務の契約を交わし、全職員に徹底をはかり、個人名が記された書類は事務所内のロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しいリズムの生活を心がけているが、無理強いすることなく、起床や食事時間など本人の意思を尊重している。毎朝、利用者の健康状態を把握したうえで、散歩、趣味、買い物など希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど、本人が「できること」を職員とともにやっている。食事は、利用者と職員が同じテーブルで楽しみながらとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は3日ごとを目安としているが、利用者の生活習慣や体調を見て柔軟に行っている。入浴を好まない利用者には声かけを工夫したり、無理強いせずに翌日に入浴してもらおうなどしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の下ごしらえ、モップかけ、花の水遣りなど、本人ができることで役割を受け持ってもらい、張り合いのある生活を送ってもらえるようにしている。趣向のタバコやお酒も希望に応じて対応している。タバコとライターは職員が預かり、その都度提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や気分を考慮しながら、天気の良い日には散歩や買い物に出かけている。また、時には喫茶店に出かけたり、家族が同伴して三浦半島、鎌倉探索などのバス旅行を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。徘徊の傾向のある利用者には、見守りや声かけ、ドアの開閉チャイムで対応している。居室は室内から施錠ができ、安全上、外側からも開錠できるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に避難、救出その他必要な訓練を行うことを運営規定に明示している。平成20年10月に業者指導による防災通報訓練を実施し、平成21年3月に消防署指導で利用者も参加しての避難訓練を計画している。事業所内には避難経路を掲示している。災害時に地域からの協力を得られるように、運営推進会議で町内会長と話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量と水分摂取量をその都度記録している。管理栄養士が作成した一食当たり500キロカロリーの献立を基に、職員が調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を保持している。居間には、生け花が飾られ、壁面に利用者の作品の絵画やスナップ写真などが貼られて、テレビ、ソファが置かれてくつろげる様になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や愛着のある品を持ち込めることをパンフレットに明記している。居室には、整理ダンスや仏壇等が持ち込まれ、写真やぬいぐるみ等も飾られ、それぞれの好みの設えになっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ゼロケア栗平センター
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市麻生区栗平1丁目2-13
記入者名 (管理者)	宮下 志づゑ
記入日	平成 21 年 1 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング・カンファレンス時に理念を確認しあっている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの理念を利用案内書、ホームの見えやすいところに掲示している。また、近隣の方等に認知症のあることを伝え温かくご理解していただけるよう心掛けている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	道で会った際には挨拶をしたり、また散歩の途中で会った時には立ち話などしてお付き合いを心がけている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員会、家族会等の協力を得て地域へ出かけて行くことを目指しているが、実現していない。	○ 地域活動に参加出来るようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的には動いていない。	○	今後取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義について理解し、自己評価を職員全体で話し合っている。	○	今後も改善に活かせるよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、運営状況、評価内容について報告し、アドバイス等も貰っている。	○	今後も更に話し合いを持ち積極的な意見を貰い、サービスの向上に活かせるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営基準等で不明な点は必ず市の担当者に確認、またその他でも相談に乗って貰っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度について、積極的に研修に参加し、必要な入居者には制度を活用し、支援をおこなっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加。また研修資料やパンフレットを整備、確認できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、必ずご利用者やご家族と面接を行い、十分に説明し、理解・納得して頂けるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の意見があった場合は管理者に報告し、解決、改善に向け努力している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時には日頃の様子を伝えており、また毎月、ご利用者の近況報告を手紙で行っている。その他、健康状態で何かあればその都度報告している。	○ 写真を同封するなどして、今後も積極的に行ってきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の意見があった場合は管理者に報告し、解決、改善に向け努力している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案等あれば、毎日の申し送り時やミーティング・カンファレンス時に出してもらっている。また、ご利用者受け入れについても職員の意見を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等の際には、必要な職員配置を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による穏やかな対応を心掛けている。離職を最小限にとどめている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	川崎市による現任研修の周知徹底とともに半年に1度は有給にて研修参加を促している。ヘルパー2級の資格研修には実費半額補助を行ない、受講してもらっている。管理者は社内の管理者研修・コンプライアンス研修等を受講している。	○ 今後も更に充実させていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会への参加している。、各種研修における相互交換で訪問等を模索している。	○ 今後、実施に向け具体的な計画をしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	センター長は各ユニットをこまめに見て廻り、管理者や職員が話をしやすいよう働きかけている。職員の休憩時間はなかなか取れずにいたが取れるようになってきている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	疲労の溜まらないよう配慮したシフトを組んでいる。労働基準法に沿った就業規則があり、守っている。1年に1度、夜勤従業者は半年に1度の健康診断を実施している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメント時に必ずご本人からお話を伺い、信頼関係が築けるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメント時に必ずご家族からお話を伺い、信頼関係が築けるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現況を伺い、デイサービスやショートステイ等も含め対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイから始め、徐々に馴染んで頂けるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はご利用者の感情に寄り添うよう努めている。また、得意分野で力を発揮していただき、お互い様の気持ちで生活している。	○	ご利用者の思いに共感し、より深く理解していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加して頂いている。また、来訪時にお話を聞くようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族の意向に沿い、より関係が深まるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等が訪れやすいように環境作りに努めている。また、来訪時にはお話を伺うようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者が孤立しないよう、雰囲気作りやスタッフが関わり交流できるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院のため退去された場合等は、お見舞いに伺うなどして る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケアの中で、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。また、コミュニケーションが難しいご利用者は表情を観察するなどして、日々のケアに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント時に把握するようにしている。入居後は日々の会話を通じ、また、ご家族の来訪時にお話を伺うなどして把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画に基づき、ご利用者の意思・状態などを把握し対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者の希望に沿いながら、職員と計画作成担当が日々の様子などを意見交換し、カンファレンスで話し合い作成・実行に向け努力している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員と計画作成担当でほぼ6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。	○	もう少しきめ細かな対応を行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、情報の共有。日々の様子やケア内容も記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスと協働し、お互いのボランティアの発表会を合同で行なっている。デイサービスのリハビリ機器、アクティビティ材料を使用させてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居前のご近所の方の来訪を受けている。	○	公民館・図書館等の地域資源を活用できるよう支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、具体的な支援は行なっていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、具体的な協働は行なわれていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のあったご利用者には月2回訪問診療を行っている。異変時には電話相談、往診などをしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	具体的な受診支援は行っていない。	○	今後行っていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在のところ、具体的な協働は行なわれていない。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関には必要な情報を提供・相談に努めている。また、入院時には、できるだけお見舞いに行き、精神的安定を保つていただけるよう配慮している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医、職員と常に相談できる体制を整え支援している。	○	事業所が対応しうる最大の支援方法を医療関係を含め十分話し合い、全員で方針を共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医、職員と常に相談できる体制を整え支援している。	○	事業所が対応しうる最大の支援方法を医療関係を含め十分話し合い、今後の変化に備えていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことになった場合、移行先への介護情報や医療情報等必要な情報を伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴・排泄については一人ひとりのプライバシーを守っている。言葉かけや対応には目立たない形で配慮している。記録等の個人情報については全てロッカーに保管し、職員には情報保護を徹底させている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できる限りご利用者個々に合わせたペースで意思確認、決定していただくよう支援している。	○ ご自分の思いや希望を表しやすい雰囲気を作るなど、より細やかな対応を行なっていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活リズムを作っていただくため、必ずしも希望にはそえていないが、方向性は大事にしており、できるだけ尊重するよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望されたご利用者には訪問美容でカットをしていただいている。	○ 今後、身だしなみだけでなくおしゃれにまで気を配りたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事を中心に準備や配膳、後片付けをしていただいている。食事はスタッフも一緒に会話を楽しみながらしている。	○ 今後、より積極的に行なっていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々のご利用者により、おやつやタバコ等を預かり楽しんでいただいている。	○ ご本人がより自由に希望を表せるような雰囲気に持っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄リズムを把握し、適宜トイレ誘導を行い自立した排泄行動ができるよう支援している。その際プライドを傷つけないよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全ての希望には添えてないが、できるだけゆっくと入浴していただいている。入りたくないという方には翌日入っていただくなど、配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを作り、安眠・休息の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の力に合わせ、テーブル拭きやモップ掛け等役割を担い、張り合いが持てるよう支援している。また、アクティビティの時間を設け、楽しみや気晴らしができるよう支援している。月2回書道を行っている。	○	より積極的にアクティビティに力をいれたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されるご利用者には小額のお金を所持していただいている。また、買い物はできるだけご本人と一緒にいき、買っただけでいい。	○	買い物は一種の気晴らしでもあるため、今後とも積極的に支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご希望に沿った形で散歩や買い物の付き添い等を行っている。	○	今後とも積極的に行っていききたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	喫茶店に出かけたり、ご家族と一緒にバス旅行に出かけたりしている。	○	今後とも積極的に行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されるご利用者の方には電話をしていただいたり、年賀状を出すなどの支援を行っている。	○	希望されたご利用者には、年賀状を出す支援をしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただける様、挨拶や雰囲気作りに努めている。また、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。	○	より、雰囲気作りに努めていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の人間性を尊重し、拘束は行なわないことを職員が周知しており、拘束をすることなくケアをおこなっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵をかけていない。居室は室内からの施錠で入居者がプライバシーを守っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、一時間毎の所在確認チェック、夜間の巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ライター等危険な物は事務所にて保管・管理している。また、キッチンの洗剤は夜間は手の届かない奥に置くよう決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修等での知識を情報として共有。具体的には見守り、介助を行っている。事故が起きた際には、事故報告書を作成、ミーティングを行い再発防止に努めている。	○	今後も、徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は消防署の応急手当等講習に積極的に参加している。	○	今後は施設内でも研修をおこなっていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練をおこなっている。	○	今後もより具体性を持った内容で訓練をおこない、地域の協力も得られるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	重要事項説明書にてご家族には理解していただいております、できるだけ抑圧感のない状況で生活していただいております。	○	入所時だけでなく、その時のご利用者の身体状況に合わせて、その都度話し合いを行なっていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行っている。つねに顔色や様子に注意し、変化があれば申し送り、その後の対応につなげている。	○	季節の変わり目や夏場などその時々に応じて、よりきちんと対応していききたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認はもちろん、薬の内容がわかるよう、説明書を各人の薬箱に張っている。また、研修に参加し知識を得るよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すよう、毎日体操や散歩などで体を動かすようにして頂いている。食材については、オリゴ糖を使用したり、乳製品・果実・根菜類等を摂取するなど工夫している。	○	今後とも積極的に行なっていききたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	できる限り食後の口腔ケアの声掛けや誘導を行っている。自立の困難な方にはスタッフが援助、夜は入れ歯を管理させていただいている。	○	毎食後行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録し、一人一人の状態を確認している。野菜を多く取るよう心がけているが、時にはご利用者に食べたい物を聞きながら、その日の献立を決めている。	○	カロリー、栄養バランスについては必ずしもキッチンとしていない為、今後力をいれていきたい、
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は手洗い・うがい、食事前には手洗いを実施。洗面所には消毒薬を設置。てすり、ドアノブは消毒している。職員は感染症に対する研修に参加し最新の情報を確保している。	○	今後も徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁・布巾はハイター消毒を行っており、洗った食器は乾燥機を使用している。また、食材の賞味期限・賞費期限等状態については必ず確認をしている。	○	今後も徹底していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花壇を設け、段差の少ないアプローチにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節の飾り物で工夫し、居心地よくしている。	○	より居心地のよいように工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあり、一人横になっている方もあれば、二人で座っておしゃべりしていることもある。	○	狭い空間なので難しいが、時にはレイアウトを変え工夫に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を置いていただき、ご利用者の好みに合わせた居室にして頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やリビングは換気機能を利用しており、廊下には空気清浄機を設置している。また、各居室についてはご利用者の状況に合わせ、職員が空気の入換えや温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりが設置され、自立を支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状況に合わせ、必要な場所には表示をし、各居室の前には名札をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにベンチがあり、日光浴をしたり、時には昼食やお茶を楽しんでいる。また、鉢植えを置いて水遣りをお願いしている。	○	今後ともより積極的に行ないたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ボランティアによる外部との交流。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ゼロケア栗平センター
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県川崎市麻生区栗平1-2-13
記入者名 (管理者)	曾根久美子
記入日	平成 21 年 1 月 3 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング・カンファレンス時に理念を確認しあっている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの理念を利用案内書、ホームの見えやすいところに掲示している。また、近隣の方等に認知症のあることを伝え温かくご理解していただけるよう心掛けている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の一員として日常的な付き合いが出来る様努めている。近隣の方々との積極的な挨拶を心がけている。	○ まだ狭い為、更に積極的のお付き合いを広めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員会、家族会等の協力を得て地域へ出かけて行くことを目指しているが、実現していない。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的には動いていない。	○	今後取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義について理解し、自己評価を職員全体で話し合っている。	○	今後も改善に活かせるよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、運営状況、評価内容について報告し、アドバイス等も貰っている。	○	今後も更に話し合いを持ち積極的な意見を貰い、サービスの向上に活かせるようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営基準等で不明な点は必ず市の担当者に確認、またその他でも相談に乗って貰っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度について、積極的に研修に参加し、必要な入居者には制度を活用し、支援をおこなっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の拘束、虐待を行なわない事を職員全員が認識し、実践している。	○	勉強会、研修を通して更に防止に努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族との面接を必ず行い、契約時、解約時に説明し、理解して頂いている。	○ 更に十分な説明ができ、理解を深めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の意見があった場合は管理者に報告し、解決、改善に向け努力している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要な時に文書、口頭で伝えている。請求書等を発送する際にお便りとして今月の様子をお知らせしている。	○ 今後更に家族の意向を聞き、報告内容を充実したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の意見があった場合は管理者に報告し、解決、改善に向け努力している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行なえない月もある。出来る限り毎月フロア会議を持ち、意見や提案を聞く機会を設け、反映させるよう努めている。	○ 今後、更に運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来る限り、対応するよう、職員確保を努力している。	○ 職員の体制を整え対応できるよう、さらに取り組んでいきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による穏やかな対応を心掛けている。離職を最小限にとどめている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>川崎市による現任研修の周知徹底とともに半年に1度は有給にて研修参加を促している。ヘルパー2級の資格研修には実費半額補助を行ない、受講してもらっている。管理者は社内の管理者研修・コンプライアンス研修等を受講している。</p>	<p>○</p> <p>今後も更に充実させていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の連絡会への参加している。、各種研修における相互交換で訪問等を模索している。</p>	<p>○</p> <p>今後、実施に向け具体的な計画をしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>センター長は各ユニットをこまめに見て廻り、管理者や職員が話をしやすいよう働きかけている。職員の休憩時間はなかなか取れずにいたが取れるようになってきている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>疲労の溜まらないよう配慮したシフトを組んでいる。労働基準法に沿った就業規則があり、守っている。1年に1度、夜勤従業者は半年に1度の健康診断を実施している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>回を重ね、本人から話を聞くため、信頼関係を築けるよう、努力している。</p>	<p>○</p> <p>今後も更に現状の把握、問題解決を、受け止められるようしていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いを理解し受け止める努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も更に傾聴し、その情報は職員全員で共有していくように努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を把握し、あらゆる角度から支援できるよう努めている。	○	今後も更に傾聴し、個々の希望に対応出来るように努力したい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族との面談後、必ずショートステイを利用していた。その後再び面談を行い、職員からの様子を伝え、家族と相談しながら徐々に馴染めるよう工夫している。	○	今後も更に、良い雰囲気作りや、馴染んで頂く為の工夫をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寂しさや不安を軽減し、多くの経験をされた人生を尊重し、様々な経験を伺っている。ともに生活が楽しいものとなるよう支え合う努力をしている。	○	今後も、個々に対応出来るように努力したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	双方の意見や思いを聞きながら共に考え、一方的にならないように心がけている。	○	今後も、個々に対応出来るように努力したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	機会を通し、努力している。	○	今後も理解を深め、実現にむけて努力したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人を招いたり、訪問したり、機会を作る努力をしている。	○	今後も、個々に対応出来るように努力したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難しい場面もあるが、常に良い関係が作れる様、前向きに話し合いながら努力している。	○	今後も更に個々に応じどのような支援が出来るか、実現にむけ具体的に考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ここでの生活が大切なものとなるよう、利用者、家族と今後の生活について話をしている。ケースにより訪問サービス、デイサービス等支援できる取り組みをしている。	○	今後も利用者、家族との関係を大切に出来る支援をしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意見を言えるよう、環境を整え、把握する努力をしている。	○	今後も更に継続して、引き出せるよう努力し工夫していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接を通し、本人や家族から聞き取りをしている。入居後も継続して把握に努めている。	○	今後も更に継続して把握していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の状態と医療関係者の情報を加え、共有し、把握に努めている。	○	今後も更に継続して把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族それぞれの思いを大切に、日々の様子も職員より情報を出し合って介護計画書に反映させる努力をしている。	○	今後も更に、継続してより良く暮らす為の課題とケアのあり方を考えていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間、状態に応じ話し合い、必要に応じ対応するよう、努力している。	○	今後も更に継続して、本人、家族、関係者と共に話し合い、現状に即した計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケアの記録を個別にしている。申し送りや会議にて介護計画に反映させている。又記録を活用して情報の共有化を心がけている。	○	今後も更に情報を共有しながら見直しに活かせるよう、努力していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスと協働し、お互いのボランティアの発表会を合同で行なっている。デイサービスのリハビリ機器、アクティビティ材料を使用させてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居前のご近所の方の来訪を受けている。	○	公民館・図書館等の地域資源を活用できるよう支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、具体的な支援は行なっていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、具体的な協働は行なわれていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて支援している	○	今後も希望を大切に、より良い、適切な医療が受けられるよう、取り組んで生きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同行支援をしている人もいる。 まだ専門医との関係はたりていない。	○	今後適切な診断や治療を受けられるよう、支援していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在のところ、具体的な協働は行なわれていない。	○	今後、必要に応じて行なっていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院を訪問し、利用者、家族と相談を重ねている。又病院関係者との情報交換を密に行い、その後の生活の為協働している。	○	今後、ケースに応じて深く関わってきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医、職員と常に相談できる体制を整え支援している。	○	事業所が対応しうる最大の支援方法を医療関係を含め十分話し合い、全員で方針を共有していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医、職員と常に相談できる体制を整え支援している。	○	事業所が対応しうる最大の支援方法を医療関係を含め十分話し合い、今後の変化に備えていきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者で情報交換を行なうと共にサマリーを出している。	○	今後も、関係者間で充分話し合い、ダメージを防ぐよう努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個の尊重を基本に、情報の取り扱いには充分気をつけている。	○ 今後も配慮していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	可能な限り、ゆっくりと時間をかけて支援している。又必要に応じて介護計画に、具体的に提示している。	○ 今後も自己決定を支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出、編み物、音楽など、可能な限り、支援している。	○ 今後も希望に添って支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御自宅より以前のものをお持ちいただいている。更衣時には一緒に選んでいる。理、美容は御家族と馴染みのところに行ったり、出張美容室にてサービスを提供してもらっている。	○ 今後も、希望に添えるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り調理に参加し、楽しんでいただけるよう、個々にあった参加を支援している。	○ 今後も一緒に活動、参加出来る様に支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒などは事前に利用者、家族と話し合いを持ち理解を得ている。祝の席では時々提供する事がある。。たばこは決めた場所で職員の見守りにて楽しんでいただいている。その他については可能な限り支援している。	○ 今後も状況にあわせて楽しんで頂けれよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の記録をし、体調、排泄パターンを参考にして支援している。	○	今後も意志を尊重し、残存している力を生かした排泄ケアをしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	予定は立てているが外出、体調、をみながら随時対応している。入浴を楽しんでもらうよう、時間帯や入浴剤の希望も伺い、支援している。	○	今後も、入浴を楽しむことができるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を大切にしている。夜間は状況に応じ、会話を含め寄りそってすごしている。寝具の場所を変えたり、添い寝するケースもある。	○	一人ひとりのペースを大切に安心して眠りにつけるように支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の力活かして、家事、園芸など一緒に楽しめるよう、支援している。	○	一人ひとりの生活にあった、楽しみ、気晴らしなど理解を深め、実行出来るよう取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で出来る方は自己管理している。	○	今後も共に話し合い、支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々対応が難しい時もある。個人、グループと様々な方法で支援する努力をしている。	○	まだ希望に充分添えているとは言えず、今後さらに努力し、取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人の外出、全員の外出、少しずつ支援している。家族と共のバス旅行も機会がふえている。	○	今後も希望に添えるよう機会を増やし、充実したものとなるよう、取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられよう、お知らせし、又お手伝いをしている。 行事のお手紙、カードと一緒に作ったり支援している。	○	今後はもっと機会を増やせるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	電話のやり取りを頻繁に、関係が良好なものとなる様支援している。 食事会や散歩等も同行していただいている。	○	今後、更に気軽に訪問して下さるよう、工夫していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の人間性を尊重し、拘束は行なわないことを職員が周知しており、拘束をすることなくケアをおこなっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵をかけていない。居室は室内からの施錠で入居者がプライバシーを守っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間共に一時間毎の所在確認を記録にて取り、職員の連携をもって安全に配慮している。	○	今後も充分安全に配慮し、努力していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には家庭的な配置を心がけている。しかし異食、火傷、その他危険を想定して保管や職員、事務所管理としている。	○	今後も状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日中の活動時間、食事時間、夜間の睡眠時等、全ての時間を見守り、又職員の連携を図り、安全に取り組んでいる。	○	話し合い、研修を通し、更に知識を学び、事故防止に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は消防署の応急手当等講習に積極的に参加している。	○	今後は施設内でも研修をおこなっていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練をおこなっている。	○	今後もより具体性を持った内容で訓練をおこない、地域の協力も得られるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に話し合いと説明を行なっている。入居後においては状況に応じて家族と話し合う機会を持ち対応している。	○	今後も個々の状態に応じて話し合いを持っていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックと体調観察をして記録をし、申し送りにて職員と情報を共有している。又必要に応じて家族や医師と連絡をして連携をとり健康に配慮している。	○	今後も体調変化の早期発見に努め早い対応をしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネージャーが主に薬をケースにセットしている。服薬時には飲み込みまで必ず確認している。体調の変化には注意し家族や、医師と連携をとっている。	○	体調により投薬が変わる事があり、尚いっそう注意と理解に努めたい。又正しい理解のため、研修もしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員で原因、対応を常に話し合いをしている。又御家族と相談し医師との連携をとり服薬の介助も行なっている。	○	今後も食事や生活の工夫もしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けをし、又利用者に合わせて口腔状態を清潔に保つ努力をしている。	○	今後も口腔ケアの大切さを職員全体で、意識していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂食量、水分量を記録し、日々、一人ひとりの状態や習慣の中で支援を心がけている。	○	個々の習慣を大切に把握と工夫を重ねていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後は手洗い・うがい、食事前には手洗いを実施。洗面所には消毒薬を設置。てすり、ドアノブは消毒している。職員は感染症に対する研修に参加し最新の情報を確保している。	○	今後も徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防の為、台所、調理用具など衛生管理には洗浄、消毒の注意をはらっている。食品の新鮮さや期限には複数の職員でチェックを行なっている。	○	日々、徹底、努力を怠らないようにしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花壇を設け、段差の少ないアプローチにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんの過ごすリビングにはソファを置きくつろげるようにしている。皆さんの手作りの作品を飾ったり、季節感を取り入れ、工夫をしている。	○	もっと工夫して良い空間作りをしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、椅子などセッティングを時々配置を換えている。	○	今後も思いを大切に工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物、また服などもお持ち頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、空調には毎日、時間ごとに配慮している。季節や天気に応じ空気清浄機、加湿器なども使用している。	○	今後も季節、天気に応じ配慮していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に安全、自立した生活が送れるように工夫している。手すり、段差解消、車椅子使用で活動できる間口、廊下幅など広く出来ている。	○	今後は個々の変化に応じて対応に努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に名前をつけたり、浴室、トイレには大きなプレートもつけ、工夫している。	○	更に良い関係作りによりコミュニケーションの中で工夫していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	二階のベランダは狭いが、1階にはベランダも広いので利用している。併設の通所の施設利用も可能である。	○	今後も皆さんで話し合い、アイデアを出し合い、活動にかきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)